

西小倉地域小中一貫校整備検討委員会
学校部会 資料①

(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

宇治市教育委員会
令和4年 8月

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

目次

1. はじめに	1
2. 敷地概要	2
3. 基本コンセプト	4
4. 計画概要	8
5. 図面編	9
・1階平面図	9
・2階平面図	10
・3階平面図	11
・4階平面図	12
・断面図	13



1. はじめに

宇治市では、平成24年度より全市で小中一貫教育を実施し、義務教育9年間を通して、児童生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行うことにより、学力の充実・向上を図るとともに、豊かな人間性や社会性を育むことに努めているところです。

平成24年度に開校した宇治市で初の施設一体型小中一貫校となる宇治黄檗学園では、9年間の系統的・継続的な指導、子どもたちを包み込む保護者、地域の皆様の思いに支えられて、全校児童生徒は伸び伸びと学校生活を送っております。小学生にとっては、普段の学校生活の中で、中学生の姿から、将来の理想像を見出し、中学生も小学生の姿にこれまでの自分を投影して振り返ることができます。こうした日常が、自己有用感を育み、子どもたちは、充実した学校生活を送ることができます。さらに、義務教育9年間を同じ学校で過ごすことで、子どもたちの様子が目に見える形で教職員の中で共有され、中学生になっても困ったときには同じ学校にいる小学校の先生(元担任等)に相談できることなどが、施設一体型小中一貫校の良さであると考えています。

西小倉地域においては、令和元年12月に地域を主体とした「西小倉地域の小中学校のあり方検討委員会」から、3つの小学校(西小倉小学校・北小倉小学校・南小倉小学校)と西小倉中学校を統合し、小中一貫校として新設の学校の整備を求める要望を受けて、本市2校目となる(仮称)西小倉地域小中一貫校の整備に向けて検討を開始し、令和3年8月、開校場所を西小倉中学校敷地とし、令和8年4月の開校を目指すことを決定しました。

令和4年1月、有識者等からなる「西小倉地域小中一貫校整備検討委員会」を設置し、委員会内の学校部会で(仮称)西小倉地域小中一貫校の整備に関することについて、地域、保護者、学校関係者等と意見交換を重ねてきました。

このたび宇治市教育委員会では、これまでの整備検討委員会でのご意見を踏まえ、新しい時代の学びを実践し、さらには西小倉地域の核となる学校施設としての基本的な事項をとりまとめた「(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画」を策定しました。

なお、本計画における各種の図面は計画内容を視覚的にイメージしたものであり、今後、具体的な事項について検討を進め、基本設計、実施設計の中で必要な変更を加えていくものとしています。したがって、本計画図面が(仮称)西小倉地域小中一貫校の完成図となるものではありません。

2. 敷地概要

●敷地の条件、施設の規模

敷地 京都府宇治市伊勢田町遊田7番地の1(現:西小倉中学校敷地)

主な施設

校舎(児童生徒数 小学校650人、中学校300人、計950人程度)

屋内運動場、25mプール

グラウンド など

用途地域等 第一種中高層住居専用地域、準防火地域

主な法的規制 建ぺい率60% 容積率200%

第二種高度地区

景観G地区

敷地面積 23,739m²

・計画地は、宇治川の左岸(西側)に位置し、景観構成要素として広大な田園地、「巨椋池干拓田」を含む地域である。



巨椋池干拓田

■敷地及び周辺の写真

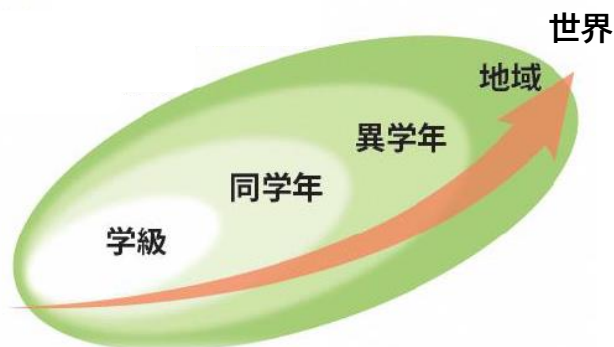


グラウンドから見た西小倉中学校の校舎

3. 基本コンセプト

テーマ:「同学年から異学年、地域から世界へと広がる、探究力を高める学び舎」

学級の枠を超えて、同学年から異学年、地域から世界へと視野を広げ、好奇心や興味関心、探究力を高める学び場



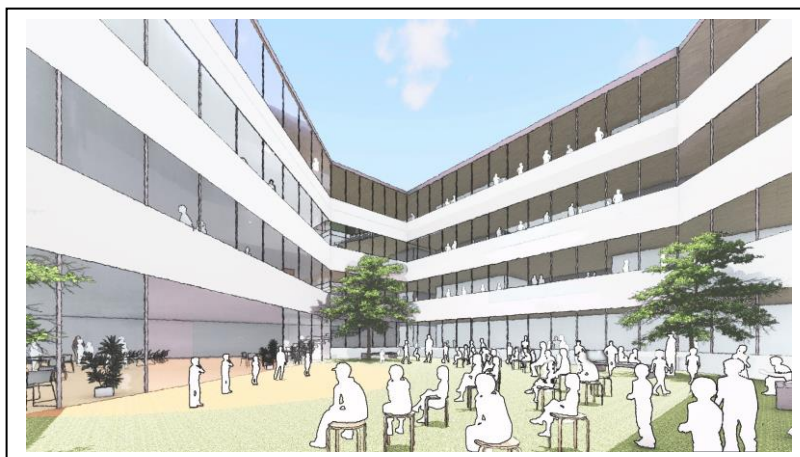
1. 子どもたちが光り輝く小中一貫教育を推進する学校

○子どもたちの発達段階に応じた9年間を見通した系統性、連続性のある多様な教育活動を効果的に行える施設

- ・学年単位のつながりを深める学年ユニット
- ・発達段階に対応したフロアゾーニング

○多様な異学年交流ができ、9学年のつながりとふれあいで、互いに成長できる施設

- ・多様な仲間との一体感を高める動線計画
- ・異学年との学び合い・交流を広げるスペースの確保



(中庭イメージ)

- 異学年の活動の様子が校舎全体から見渡せる構造であることにより、一体感を持ちながらも子どもたちが異学年や多様な学びへの関心を抱き、成長と共に関係世界を広げていく探究力を育む

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

○主体的な活動の支援や豊かな創造性を引き出すなど主体的な学びを実現する、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育が行える空間や施設

- ・自然を感じ、仲間とつながるスペースの確保



(コモンズイメージ)

■児童生徒の作品を展示・鑑賞することなどで異学年の活動を感じ、学年を超えた交流をとおり、仲間とのつながりを育むコモンズを配置

- ・中庭を活かした開放的な交流・学びの場



(中庭イメージ)

■イベントや屋外学習等、柔軟で

創造的な学びに対応した交流ホールと一体利用可能な中庭を中央に配置

○小中学校教職員が協働して一つの学校として機能し、学校運営の一貫性を確保できる施設

- ・教師と児童生徒のコミュニケーションを深めるスペースの確保



(教師ステーションイメージ)

■休み時間に子どもが教師と相談をするなど、様々な交流を育む教師ステーションを配置

- ・職員室などの管理機能を集約配置し、職員同士の連携を強化

2. 多機能で変化に対応し、多様な教育課題に対応できる学校

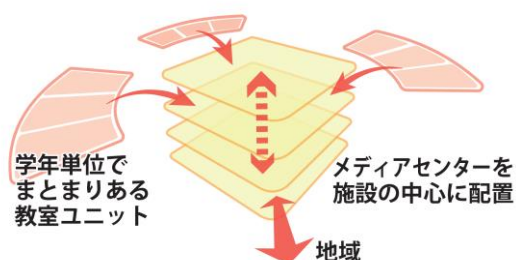
○機能性や柔軟性、可変性を持つことにより、随時変化する多様な教育内容や教育方法に対応できる施設

- ・対話型授業にも対応できる、教室の機能性の確保
- ・多目的な活動が展開しやすいスペースの確保

○学校施設全体が柔軟で創造的な学びを実現できる空間であり、どこでも教育の場、表現・交流する場、心のゆとりと豊かさを育む場となる施設

- ・多様な交流が行えるスペースの配置
- ・校舎全体に光と風が行きわたり、自然を感じるができる環境づくり

■図書室の機能に加えて、ICT 機器を活用し、子ども自らの探究的・創造的な学びを促すメディアセンターを整備



(メディアセンターイメージ)

○ウィズコロナ・ポストコロナ時代において、すべての子どもたちに学びを保障する、新しい時代の学びを支える教育環境を提供できる施設

- ・GIGA スクール構想、ICT 教育など、新しい学びに対応できる教室環境の確保

■身体的距離を確保しつつ、タブレット端末を利用した学習やグループ学習など、個別最適な学びと協働的な学びに対応できるゆとりのある教室を整備

○教育活動に必要な機能を確保しつつ、イニシャルコスト・維持管理コストの縮減を図り、長寿命化にも配慮した施設

- ・構造の合理化等によるイニシャルコスト・維持管理コストの縮減
- ・清掃・修繕しやすく長寿命化に配慮した計画

3. 安全・安心で、利用しやすく、子どもたちが楽しく通える学校

- 多様な発達段階の子どもたちが、のびのびと活動できる快適性と安全性を備えた空間や施設（工事期間中の安全確保も含む）
 - ・成長段階に応じた屋外活動スペース（メイングラウンド・サブグラウンド）
 - ・児童生徒の安全に配慮した工事計画

- 学校生活の中で、集中とやすらぎの調和がとれた施設
 - ・自然素材を活用し、温もりのある、心を落ち着かせる学習環境
 - ・採光・通風を確保し、明るく快適な環境づくり

- ウィズコロナ・ポストコロナ時代における新しい生活様式や、防犯面、ユニバーサルデザインに配慮し、利用する誰もが安全安心に過ごせる施設
 - ・施設中央に中庭を設け、教室や共用部に風が通り抜けやすい屋内環境の確保
 - ・見守りやすく、管理しやすいセキュリティ計画（門・昇降口・グラウンドを視認しやすい職員室配置）

4. 家庭・学校・地域が連携・協働し、互いの安心と信頼が生まれる、地域のシンボルとなる学校

- 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動を一体的に推進し、地域の教育力を積極的に活用した教育活動ができる施設

 - 子どもたちの学びを地域ぐるみで支えることができる施設
 - ・地域開放機能の配置
 - ・地域の多様なイベントを開催できるスペースの確保
 - 地域コミュニティの核となる学校として、地域利用が可能な特別教室等をゾーニングし、地域とのつながりを創出

 - 自然エネルギーの効果的利用などにより、持続可能な教育環境の実現に配慮した地域のシンボルとなる施設
 - ・自然採光・通風による、空調・照明負荷の低減
 - ・費用対効果の高い設備機器、環境技術の採用

 - 地域防災や地域コミュニティの活性化の役割が担える地域の核となる施設
 - ・避難所等の防災機能の確保
 - ・避難所エリアと学校運営エリアのゾーニング
 - 災害時は、屋内運動場等の避難エリアと教育活動エリアの動線を分けたゾーニングを実施し、避難所としての防災機能を強化
-
-

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

4. 計画概要

「中庭・交流エリア」を中心とした計画

- 1 交流の拠点となる「交流エリア」を施設を中心に配置し、日常的な生活動線からアクセスしやすく、かつ新しい学び・交流が促進しやすい計画
- 2 回遊性のある分かりやすい動線により、中庭を介してお互いの活動が感じられ、9年間の一体感・交流を育む空間構成
- 3 各機能をまとめて配置した明確な機能構成により、地域活動や避難所として利用しやすいゾーニング計画
- 4 地域開放エリアのまとまりをもたせ、地域の新たなシンボルとなる計画



(外観イメージ)

5. 図面編

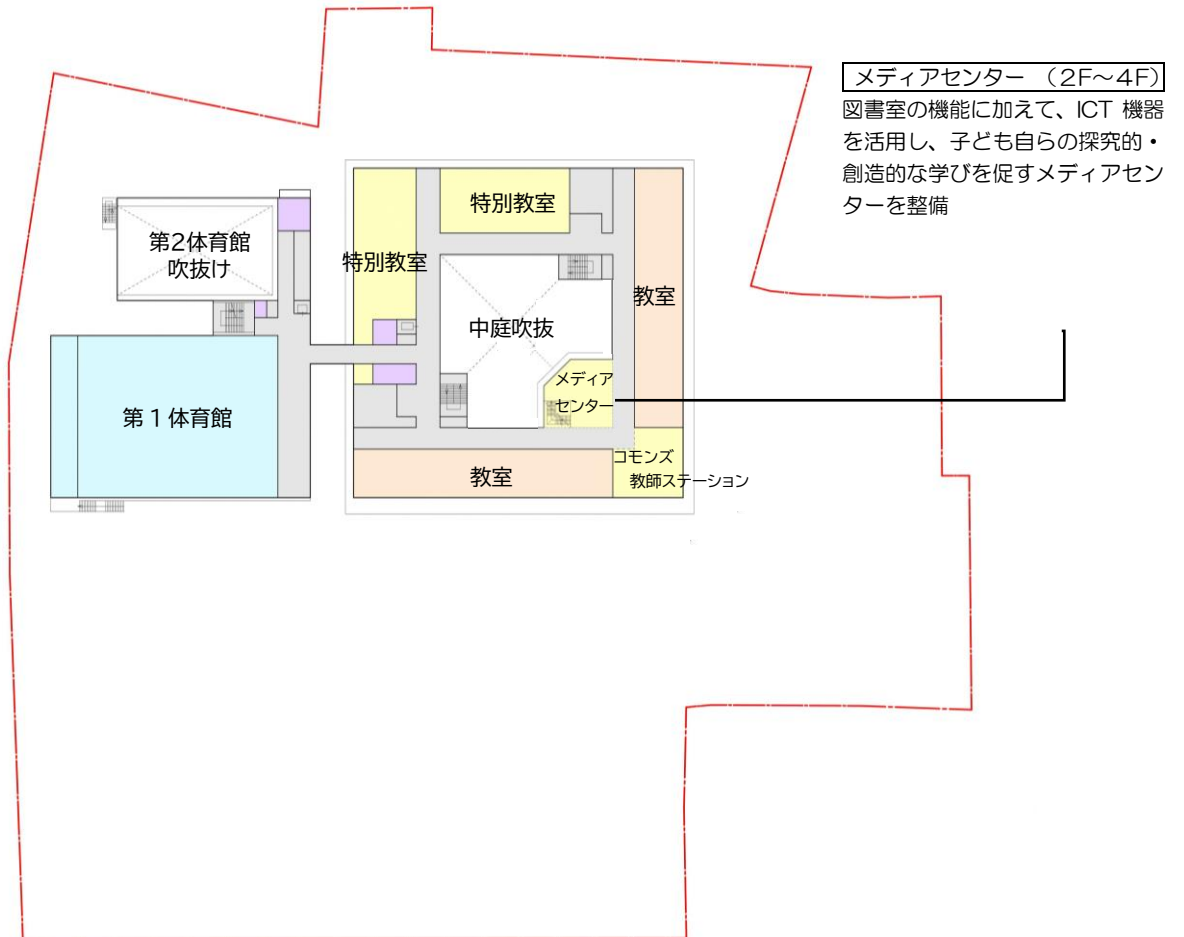


中庭や交流ホールなど、地域開放が可能なスペースにまとまりをもたせることで、地域とのつながりを創出

1階平面図

- N
- 普通教室
- 特別教室
- 運動施設
- 管理諸室
- 育成
- 共用部分

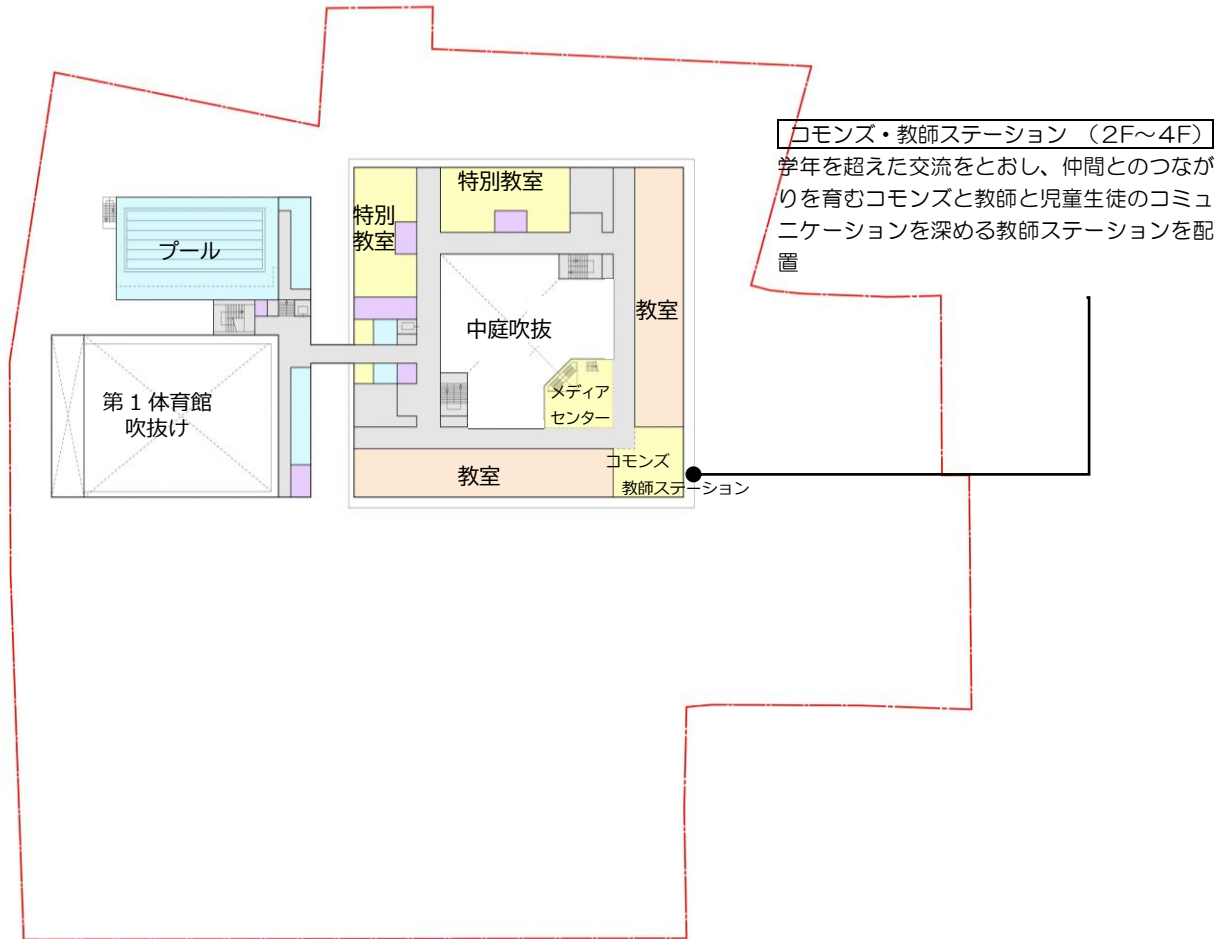
5. 図面編



- 普通教室
- 特別教室
- 運動施設
- 管理諸室
- 育成
- 共用部分

2階平面図

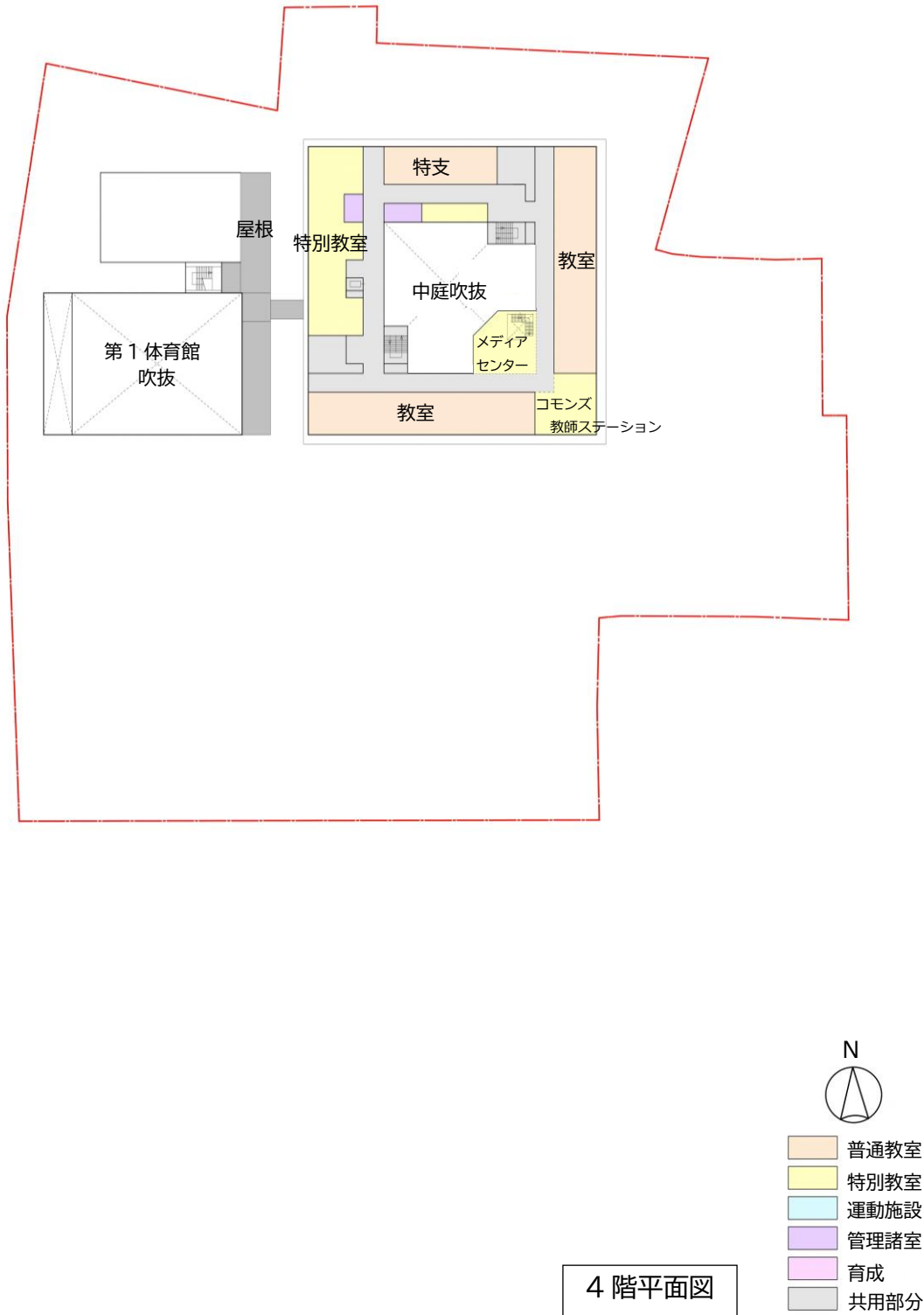
5. 図面編



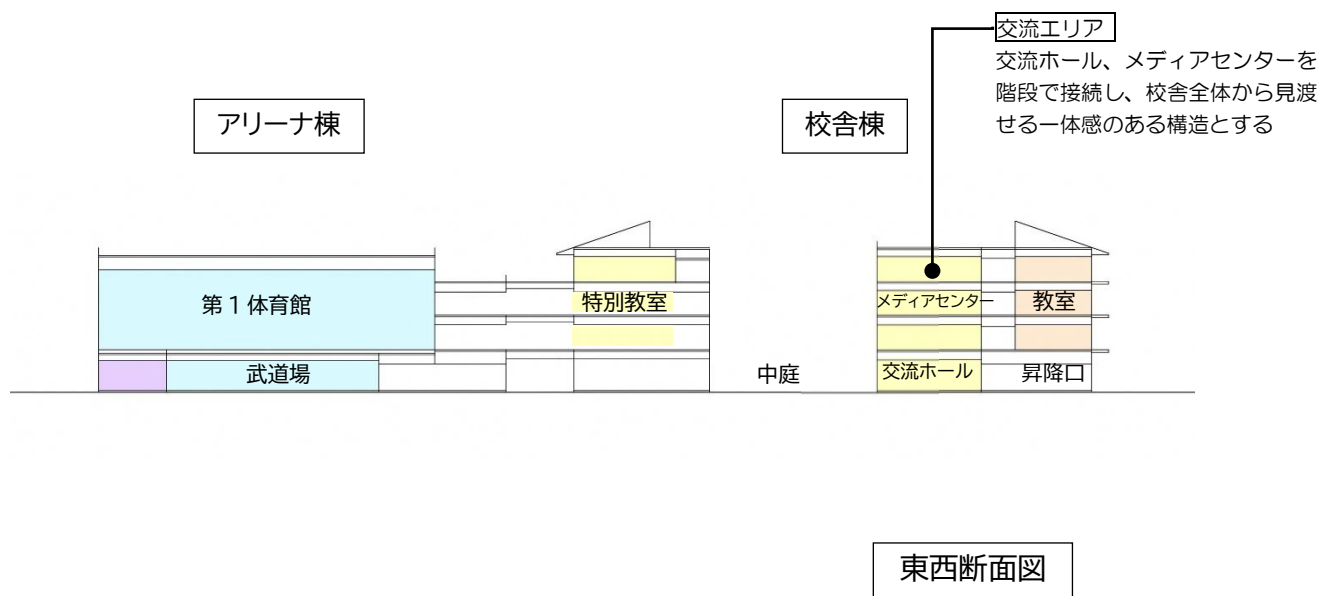
-  普通教室
-  特別教室
-  運動施設
-  管理諸室
-  育成
-  共用部分

3 階平面図

5. 図面編



5. 図面編



(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備に係る
保護者説明会 (南小倉小) 概要

西小倉地域小中一貫校整備検討委員会
学校部会 資料②

日時：令和4年10月19日 19:00～21:20

場所：南小倉小学校 体育館

参加人数：22人

質問・意見	回答
<ul style="list-style-type: none"> 給食がセンター方式になったことも急に決まった。もっと丁寧に説明してほしい。給食センターにするなら丁寧な説明をすと言っていたのにもう決定している。決まることについての周知がされていない。給食についてまず丁寧に説明すべきではないのか。 各校でどのような食育が行われているか知っているか。 センター方式にしましたという説明会はしないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌等で知らせていたが、宇治市のホームページ等様々な方法で周知していきたい。給食についてはあり方検討委員会で給食センターの機能を勘案し給食センターを活用することとした。児童生徒の減少等もあるので校舎の改修時等にはセンターを有効活用することとした。 菜園で育てた野菜を使用したりしていることは聞いている。おいしくて温かい、アレルギー対応等もしっかり行える安心・安全な給食にしていきたい。 給食センターの内容を整理し、しかるべきタイミングで早期に実施したい。
公園を取り込んでグラウンドにできないか。南小倉小学校のグラウンドがどのようになるのか。	授業については、メイングラウンド、サブグラウンド、体育館、武道場で可能と考えているが、グラウンドをできる限り広くとりたいと考えている。公園の取り込みの予定は今はない。南小倉小学校等の跡地活用については、地域のグラウンドのあり方についての議論を整備検討委員会の地域部会で行っているところである。
北宇治中は部活動がたくさんあり子どもも選択肢が多いが、西小倉中だと選択肢が少なくなる。	部活動は西小倉中学校の種目をベースに今後、学校と相談しながら決めていく。
通級や特別支援学級の児童生徒は担任の先生との信頼関係が必要なのに一気に変わるのでは先生と子どもの信頼関係が築けないのではないのか。	教師と子どもの信頼関係は重要。教師自身が一番の教育環境である。一日で信頼が崩れてしまう場合もある。しっかりと信頼関係を築けるようにしていきたい。一貫校では先生にずっと見てもらえる良さがある。子どもあつての学校である。信頼を大切にしていきたい。
法令上問題ないのかもしれないが、ずいぶんグラウンドが狭い。部活動を行っていたら放課後の子どもの遊び場も足りない。給食やグラウンド工事期間中の騒音など様々な問題が解消されていない。今後解消されるのか。	グラウンド等の面積はカリキュラム上、小学校と中学校で授業には支障ない。工事期間中は教育活動にはできるだけ配慮していきたい。放課後の遊びは学校のグラウンドで何百人の小学生が好きに遊べるわけではないが、跡地の利用も地域全体のこととして考えていく。不安が解消できるように説明していきたい。
異学年交流を促すのであれば日々いざこざがある学校になるのではないのか。	宇治黄檗学園でも中学生が小学生に優しく声をかけている場面や小学生が中学生を気遣う場面などが見られた。視察した小中一貫校でも校長先生は、「一貫校になり中学生が優しくなった」とおっしゃっていた。西小倉地域小中一貫校でもそのような教育を行っていきたい。
なぜ西小倉に小中一貫校を建設することになったのか。	宇治市では平成24年から小中一貫教育を行っている。3小1中を統合して新設の小中一貫校を建設してほしいという地域からの要望もあり小中一貫校の建設を考えたこととした。地域の思いと宇治市の小中一貫教育をさらに推進していきたいという思いが一致した。
小中一貫校になると教師は減るのか。	正確な教師の人数は決まっていないが、クラス数に応じて教師の数は決まる。今現在の3小学校を合計した教員数よりは減る見込み。
学校運営協議会委員はどのように決めていくのか。	今後、地域の方々と学校とともに考えていく。

(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備に係る保護者説明会 (西小倉小) 概要

日時：令和4年10月20日 19:00～21:00

場所：西小倉小学校 体育館

参加人数：11人

質問・意見	回答
<ul style="list-style-type: none">・災害時の炊き出しはどうするのか。・センター給食はおいしくない。センターは工場。コスト削減のために食材も添加物が多いものが見つかわれるのではないか。	<ul style="list-style-type: none">・炊き出しについては、防災計画に定められており、給食室が整備されない中でも炊き出しができるような対応等が必要。給食センターを災害時に活用できないか今後検討していく。・給食センターでもおいしく温かい、安全・安心な給食になるようにしていく。
<ul style="list-style-type: none">・西消防署の移転についてはどの程度進んでいるのか。・交番南側の土地の売却をなぜ止めないのか。・必要な広さがあるからこそ学校運営ができるのではないか。	<ul style="list-style-type: none">・西消防署について現段階では決まっていない。・交番南側の土地は一貫校の工事には現在のところ使う予定はない。・グラウンドについて必要な基準は満たしているが、多様な活動が行えるようできる限り広くとりたい。
小中一貫教育のデメリットは何か。メリットだけでなくデメリットもきちんと説明してほしい。	施設一体型小中一貫校の心配点として人間関係が変わらないという声もある。ただ、人間関係が継続することで生徒同士の共通理解ができているメリットもある。
なぜ小中一貫校をつくるのか。子どもの数が減っているということなら小学校の統合だけで良いのではないか。小中一貫校にすることに決めた決定的な根拠は何か。	3小1中を統合して新設の小中一貫校を建設してほしいという地域からの要望もあり、小中一貫校の建設を考えると。地域の思いと宇治市の小中一貫教育をさらに推進していきたいという思いが一致した。
工事期間中に3年間グラウンドが使えないのに対応についてなぜ何も決まっていないのか。	近隣の施設や小学校の利用等、学校と相談しながらきめていく。
工事期間中の学習保障はどのようにするのか。	防音対策は行うが、特に音が出る作業については授業時間以外にするなど業者に依頼する。グラウンドは敷地外になることもあるが、なるべく生徒の負担にならないようにしていく。
北側の地域住民は住宅から校舎を離してほしいと伝えているのになぜA案と決めたのか。	工事期間や生徒の負担等を考えグラウンド側に建設することとした。現在、北側住民の方々と南側に校舎を移動できないか等の話をしているところであり十分理解していただけるようにしていく。
給食やグラウンドの問題が解決していないのになぜ同時進行で工事を進めていくのか。	令和8年の開校を目指し整備を進めている。保護者、地域の方々の不安については丁寧に説明し、不安を払拭していきたいと考えている。
育成学級の希望が多くなってきた時どのように対応するのか。	児童生徒数の推移も踏まえて整備しているところ。
A案とB案で建築費用は違うのか。	どちらが費用がかかるということではなくどちらが基本コンセプトを実現できるかで判断した。
校舎内の学年はどのように配置されるのか。	1階に小学校の特別支援学級、2階から3階に小学生、4階に中学生の配置を予定している。
教職員の駐車スペースはあるのか。	敷地内・敷地外も含め今後検討していく。
エレベーターの設置は考えているのか。	校舎棟に1機、体育館棟に1機設置していきたい。

(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備に係る保護者説明会 (北小倉小) 概要

日時：令和4年10月21日 19:00～20:30

場所：北小倉小学校 体育館

参加人数：15人

質問・意見	回答
<ul style="list-style-type: none">朝は登校班で登校するが、下校は学年ごととなり、低学年もそれぞれ下校することとなり不審者、変質者などの不安がある。低学年だと30～40分かかかるので安全対策として遊歩道を確保してほしい。信号があるところを通ろうと思うとかなり遠回りになることになる。通学ルートはどのようになるのか。通学距離が遠いのでバスは出せないか。徒歩での通学となると今まで以上に見守り隊の方々の数が必要になってくると思うが確保できるのか。門はどこに設置しどのように利用するのか。	<ul style="list-style-type: none">安全に関わることなので、今行っている対策以上のことを含めて考えていく。遊歩道の設置は現段階で決まっていないが、どこが危険かを見定め、必要なことを要望していく。通学ルートについてはどの道を通れば安全かしっかりと考えていく。遠い距離でも安全に通学できるように信号や歩道等をどのように整備していくかしっかりと検討していく。宇治市内の小学校でも2km程度の通学路を徒歩で通学しているので、現段階でバスの使用は計画にない。現在も北小倉の方々には熱心に見守りをしていただいている。見守り隊の方々の活動を継続していただけるような仕組み作りもあわせて検討していく。東側を正門とし、北門からも通学を想定している。どの門を利用して何人が通学していくかは、今後通学路と合わせて検討していく。
令和8年の開校後、兄弟姉妹で別々の学校に通うことになることが考えられるが、途中で転校することは可能か。	原則として途中での転校は想定していないが、兄弟姉妹で同じ学校に通うことを求めるご要望は今後想定されるため、指定校変更の理由など今後、検討し、決めていく。
防犯カメラ等、防犯対策はどのようにするのか。	宇治市内の小学校では門のある所に防犯カメラを設置している。カメラとセンサーが連動して人が通ったことを知らせるシステムもある。スクールサポーターの配置や緊急通報システムなど今ある対策を基本とし、何ができるか検討していく。
宇治黄檗学園のデメリットと改善点は。	施設一体型小中一貫校の心配点として人間関係が変わらないという声もある。ただ、人間関係が継続することで生徒同士の共通理解ができているメリットもある。
保健室は小中ごとにあるのか。	保健室は小中ごとに配置する。可動間仕切りとして一体的に利用できるかなど今後検討していく。
南小倉小学校の利用は考えられないか。	他の説明会でも南小倉小学校を残して第2グラウンドとして活用できないかという意見があった。教育施設としての活用は考えていないが、放課後の子どもの遊び場等踏まえ、3小学校の跡地を活用できないかなど検討しているところ。
1年生の教室は2階なのか。	1階に小学校の特別支援学級、2階から3階に小学生、4階に中学生の配置を予定している。どの学年がどの階に入るかは学校との相談にもなるが、1年生は2階を想定している。
廃校となった小学校は売却するのか。その場所が住宅地になれば児童生徒数が増え、教室が足りなくなるのではないか。	現段階では売却については決まっていない。跡地の活用については地域部会で議論していただいている。児童生徒数が増えても対応できるよう教室数は考えていく。

日時：令和4年10月19日 10:00～12:20

場所：西小倉コミュニティセンター 会議室

参加人数：19人

質問・意見	回答
給食室をつくりその給食を中学生にも食べてもらいたい。災害時の炊き出しにも給食室は必要ではないか。	宇治市の方針として改修時等には給食センターの機能を勘案し給食センターを活用することとした。センター給食でもおいしくて温かい、安心・安全な給食が提供できるようにしていく。炊き出しについては、防災計画に定められており、給食室が整備されない中でも炊き出しができるような対応が必要。担当部局とも連携し検討していく。
メイングラウンドが狭いので、部活や放課後の子どもの遊ぶ場所など児童生徒の活動場所が十分でない。南小倉小学校の敷地に第2グラウンドを確保、西消防署を移転し、敷地を取り込むなどしてほしい。	小学生と中学生の授業はメイングラウンドとサブグラウンドを活用することで行える。放課後についてメイングラウンドは中学生の部活が中心と考えているが、サブグラウンド等を放課後の子どもたちの遊び場として活用したい。その他子どもの遊び場は地域全体の課題でもあるので、跡地の活用については現在地域部会で議論していただいている。
遊具スペースはあるのか。	サブグラウンド等敷地内に遊具スペースは確保していく。
工事車両はどこを通るのか。	工事車両は井川に仮設橋を設置しそこから入る予定。工事車両と生徒の動線ははっきりと分けるなど十分に安全対策を行っていく。
浸水時にはどこに避難するのか。避難所として何人が避難できるのか。西小倉の災害時の要配慮者は何人か。	現在3小1中が避難所となっている。災害時の対応についても担当部局と議論していく。
普通1年生の教室は1階ではないか。特別支援学級が昇降口の隣なのは刺激に敏感な子がいることが考えられるのにおかしいのではないか。	1年生教室が2階にあるのは市内にも複数校ある。他学年との交流を考え2階の配置とした。特別支援学級についてはバリアフリーの観点等から1階配置とした。
中庭はどのくらいの広さなのか。	数百㎡と考えている。
エレベーターはあるのか。	校舎棟と体育館棟に1機ずつ設置したいと考えている。
北側住民の理解が得られていないのになぜ北側に校舎を建てることになったのか。	子どもたちが現校舎で授業を行いながら工事を行える。プレハブを建てたり先行統合についても議論したが、工期が長くなることや引っ越しが複数回必要になったりするなど子どもの負担が大きいと考えた。
宇治市としてのビジョンが見えない。公園や消防署の取り込み等も含めてトータルなビジョンを見せてほしい。避難所や小学校の跡地の活用も含めて。	公園や消防署の取り込み、跡地の活用等については整備検討委員会の地域部会で議論していただいている。
どんな子どもを育てていきたいのか。	小中一貫校で小学生と中学生が生活することで関わりを通して、互いを思いやれる子どもを育てていきたい。
図面に寸法が入っていない。	基本設計の段階で明らかにする。
児童生徒へのアンケートをとったのか。	教職員に対してのアンケートは実施したが児童生徒へのアンケートは実施していない。児童生徒の意見も取り入れるようにしていきたい。

(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備に係る地域説明会 概要

日時：令和4年10月19日 13:00～14:20

場所：西小倉コミュニティセンター 会議室

参加人数：9人

質問・意見	回答
図面だけでは見えてこない。子どもたちの遊ぶ姿を考えて設計してほしい。グラウンドが狭い。放課後の小学生の遊び場の確保、中学生の部活との共存が疑わしい。グラウンドの広さ、13,000㎡に固執するあまり、校舎が狭くなってのびのびできるスペースがなくなることが心配。地域開放も制限される。メイングラウンド、サブグラウンドは西小倉中学校敷地内に置くのか。南小倉小・西小倉小のグラウンドを使うことは考えているのか。	グラウンドの広さは、教育のカリキュラム上は、支障が出ないと考えている。ただし、一貫校の敷地で放課後に数百人の小学生の遊び場としての活用は難しい部分はどうしてもある。子どもの遊び場等は地域部会の議論の中での検討を踏まえ、地域全体で地域活動が衰退しないよう跡地活用を図りたい。
中学校はセンターから給食配送するから、効率的に小学校も給食はセンター方式でと、サラリと説明するのはおかしい。	宇治市の給食は、小学校は自校方式、伝統も必要性もある。中学校はセンター方式。基本は小学校は自校式だが、改築時等はセンター方式という方針を8月に決定しており、今回はセンター方式とした。
メディアセンターが斬新な形で教育に活かすのは良いことだと思う。図書館が学校の中心になる。蔵書はどのように置くのか。メディアセンターとコモンズは目玉だと考える。司書教諭を小中で2名配置し、学校司書を2階と4階に常駐させてほしい。司書教諭と学校司書にメディアセンターの活用の仕方を教示してほしい。学校司書も職員会議に参加させるべき。学校司書も教職員と一体的に学びを保障できれば、教育上のメリットが大きい。授業は教師によって運営される。学校司書の活用をもっと効率的にしてもらいたい。	2階は小学生中心の蔵書、4階は中学生中心の蔵書、3階は小中学生がそれぞれで調べ学習の結果を相談したり、発表やプレゼン、他の子と相談したりする場で考えている。現在、学校司書は中学校ブロック10か所、それぞれ1名配置している。学校図書館の活用などの知識がある司書教諭を配置している。
遊田南の北側住民の日照権などの問題はクリアしているのか。北側住民への説明は引き続きしていくと言うが、説明では困る。一部の人に犠牲を強いるのはつらい。どれだけ南に下がるのか。南小倉小を活用することはないと言うが、消防署を取り込むとか、北側住民が困らないように良い回答をしてもらいたい。	北側隣接住民からは、日照権、プライバシー、圧迫感等の懸念を伺っている。校舎棟の南側への移動や北側敷地の使い方も含めて何ができるのか検討しており、ご理解いただけるようにしたいと考えている。
昇降口の広さが足りるのか心配。	緊急時には、昇降口以外からも外に出られるよう考えている。
防災機能は重要。避難所が遠くなるので、そこを踏まえて避難所のあり方を考えてほしい。	避難所を含めた跡地活用については、整備検討委員会の地域部会で検討している。西小倉中学校敷地は0.5m～3mの浸水区域のため、避難所にあたる第1アリーナは2階部分に配置している。

(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備に係る地域説明会 概要

日時：令和4年10月23日 18:00～21:20

場所：西小倉コミュニティセンター 会議室

参加人数：30人

質問・意見	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会で給食センターにすることについての説明会をなるべく早くすると回答があったが、その内容の説明会や炊き出しについても地域の方にもするのか。 ・給食室をつくってもらいたいという保護者の思いについての返事がない。 ・給食センターになるなら他市へ引っ越そうという人も出てくるのではないか。 ・給食室からのおいで作ってもらっていることがわかり一番の食育となる。人を育てていく上で食育は重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々にも避難所の炊き出し等について説明していく。 ・宇治市の方針として改修時等には給食センターの機能を勘案し給食センターを活用することとした。センター給食でもおいしくて温かい、安心・安全な給食が提供できるようにしていく。炊き出しについては、担当部局とも連携し検討していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドの面積は国の基準にはあっているそうだが、950人では狭い。このままいくというのなら反対する。 ・サブグラウンドが小さい。いくら説明してもらっても納得できない。 ・第2グラウンドを配置する、テニスコートを3面にする等子どもたちのために余裕を持ったグラウンドの広さにしてほしい。 ・西消防署の取り込みについてはどこに要望すればよいのか。 ・敷地を広げる意思が全くないように思うが。メイングラウンドが狭いので、部活や放課後の子ども遊ぶ場所など児童生徒の活動場所が十分でない。南小倉小の敷地に第2グラウンドを確保、西消防署を移転し、敷地を取り込むなどしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と中学生の授業はメイングラウンドとサブグラウンドを活用することで行える。放課後についてはメイングラウンドは中学生の部活が中心となることが考えられるので、跡地の活用については現在地域部会で議論していただいている。 ・西消防署をどうするかはまだ決まっていない。 ・隣接する土地を取り込み敷地を広げることについて、周辺環境を含め、市全体のこととして考える必要がある。
<p>体育館やグラウンドの体育振興会や学校開放の利用はどの程度あるのか。</p>	<p>今、全てをお答えできないが、地域開放での学校の活用等含めて検討している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・災害があったとき、給食室がなければどのように炊き出しをするのか。 ・災害時、給食センターから配送するといっているが近鉄で事故があれば3時間踏切が開かないこともあった。 ・防災無線、防災放送を設置する等を含めて整備してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センターをつくるにあたって避難時の炊き出し等も含めて検討していく。宇治市全体でクリアできるように考えていく。
<p>遊具スペースはあるのか。</p>	<p>サブグラウンド等敷地内に遊具スペースは確保していく。</p>
<p>令和8年の開校に向けて整備を進めているとあるが、工事についてはどのような計画か。何年くらい</p>	<p>工事については工事計画の中で決めていく。工事車両は井川に仮設橋を設置しそこから入る予定。</p>

かかり工事車両はどの程度入ってくるのか。	
外階段がないようであるが避難時はどうするのか。	避難路については基本計画に入っていないが、避難路については3つの階段を利用し、2方向の避難を基本としつつ、1階は昇降口以外の出入り口も確保するなど、計画していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・北側住民の理解が得られていないのになぜ北側に校舎を建てることになったのか。 ・検討しているとは何を検討しているのか。 ・南側に校舎を建てれば解決することが多い。先行統合し南側に建設すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北側住民の方々の思いを聞かずに進めていこうとは思っていない。しっかり説明し、納得していただけるようにしていく。 ・住宅と校舎との距離や車両の出入り、敷地の使い方等。 ・北側住民の方々とは工事期間中だけでなく建築後のことも含めて納得していただけるようにしていく。
図面に寸法が入っていない。	基本設計の段階で明らかにする。
門はオートロックにしたり ICT で来校者のチェックをしたりするなど防犯対策はしていくのか。	門はオートロックというわけではないが、宇治市内の小学校では門のある所に防犯カメラを設置している。カメラとセンサーが連動して人が通ったことを知らせるシステムもある。緊急通報システムなど今ある対策を基本とし、何ができるか検討していく。
教室数は足りているのか。	令和8年の開校時期には小学校の全ての学年で35人学級となる。現児童数であるとおおむねどの学年も3クラスとなる。宇治黄檗学園でも開校後児童生徒数が10%上振れしたのでたとえ10%上振れしても対応できる教室数となるようにしていく。
子どもの1割が学校に普通に通えない状況である。そういった子どもが安心して通える部屋はあるのか。	登校しぶりの児童生徒の対応ができる部屋の他カウンセリングルームは配置していく。登校しぶりの児童生徒の対応ができる部屋については昇降口以外からも出入りできるようにしていきたいと考えている。
育成学級も今後増えていくように思うが。	育成学級についても児童数が増えたことを想定して計画している。
北小倉からだ通学路が長くなるのにバスがでない。子どもに何かあってから考えますでは遅いのではないか。	通学路については安全に通学できるようにシュミレーションしていきたい。
教職員の駐車場がないのではないか。	敷地内に車で通勤する教職員の車を止めるスペースを全て確保することは難しい。
情報活用能力やチームワークは社会に出てからも重要。パソコンがきちんと使えるよう無線はあるか。	無線 LAN を整備していく。
他校と違うカリキュラムをしていくのか。	カリキュラムについては他校と同じ。メディアセンターを活用するなど ICT 機器や学校図書を使い、より効果的な調べ学習ができる環境としたい。
基本コンセプト4「家庭・学校・地域が連携協働し、互いの安心と信頼が生まれる、地域のシンボルとなる学校、計画概要4「地域開放エリアのまとまりを持たせ、地域の新たなシンボルとなる計画」とは具体的にどのようなことか。	コミュニティスクールを推進し、ボランティアや社会人講師等できるだけ地域の力を取り入れられるようにしていく。交流ホールや中庭を地域のイベントにも使っていく。地域開放し地域の方々にも使っていく。水害の際には2階体育館へ避難していただけるようエレベーターも設置していく。